

## 第3回 海老名市・県フルインクルーシブ教育推進会議

### 【次第】

日時 令和7年2月3日（月曜日）10：00～11：30

場所 えびなこどもセンター2階 201会議室

#### 1 開会

- 海老名市教育委員会教育長 伊藤 文康
- 神奈川県教育委員会教育長 花田 忠雄

#### 2 報告

- (1) 「対話の場」（9月以降の取組）について
- (2) 外部評価について

※書面報告のみ

- ・海老名市フルインクルーシブ教育推進協議会の進捗について
- ・調査研究部会について
- ・県外視察について

#### 3 議題

- (1) 次年度以降の推進計画について
- (2) その他

#### 4 事務連絡

（配付資料一覧は裏面）

**【配付資料】**

(資料1) 令和6年度「対話の場（9月以降の取組）」について

(資料2) 令和6年度 有識者等による外部評価について

(資料2-2) 評価報告書

(資料3) 次年度以降の推進計画について

(参考資料1) 海老名市・県フルインクルーシブ教育推進会議 設置要綱

(参考資料2) 海老名市フルインクルーシブ教育推進協議会の進捗について

(参考資料3) 調査研究部会について

(参考資料4) 県外視察について

### 第3回 海老名市・県フルインクルーシブ教育推進会議 名簿

#### 【構成員】

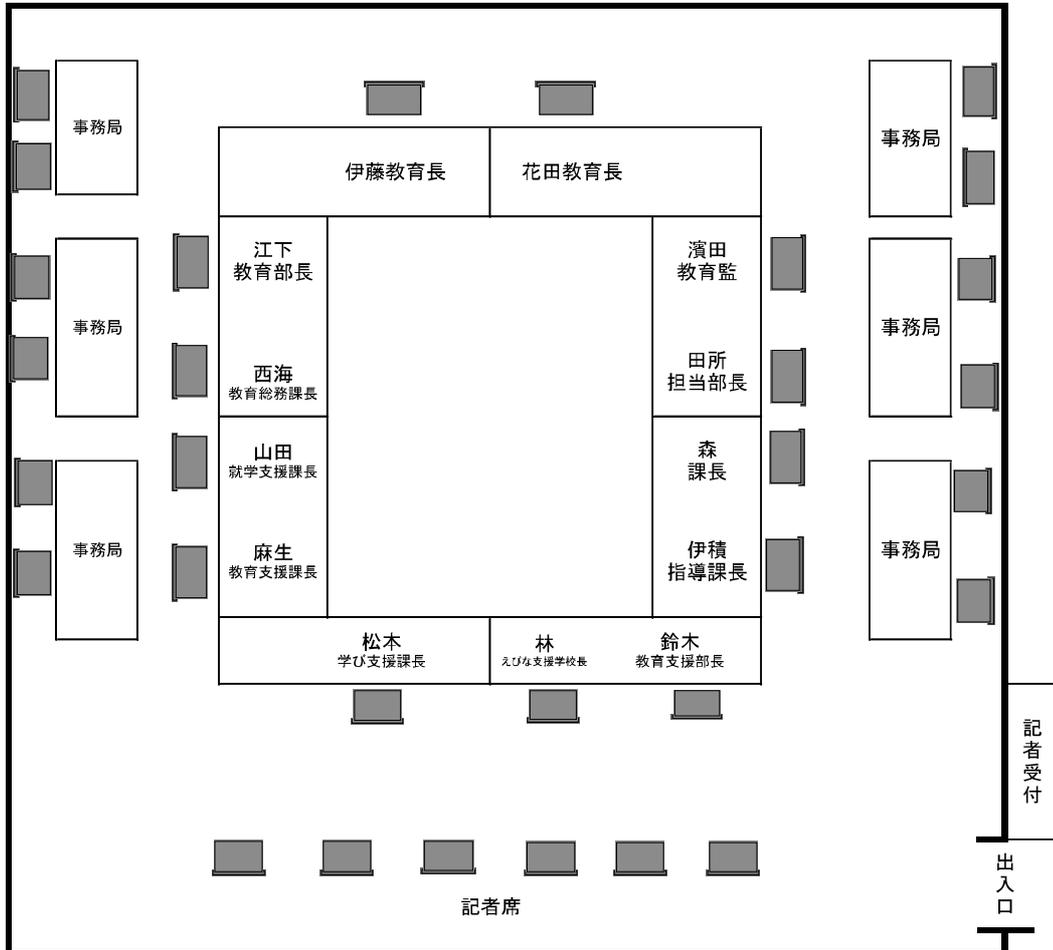
1	海老名市教育委員会	教育長	伊藤 文康
2		教育部長	江下 裕隆
3		教育総務課長	西海 幸弘
4		就学支援課長	山田 圭
5		教育支援課長	麻生 仁
6		学び支援課長	松本 晃子
7	神奈川県立総合教育センター	教育支援部長	鈴木 英資
8	県央教育事務所	指導課長	伊積 秀人
9	神奈川県立えびな支援学校	校長	林 麻佐美
10	神奈川県教育委員会	教育長	花田 忠雄
11		教育監	濱田 啓太郎
12		インクルーシブ教育推進担当部長	田所 健司
13		インクルーシブ教育推進課長	森 由佳

#### 【事務局】

14	海老名市教育委員会	教育支援センター所長	小菌 洋
15		教育支援課指導係 指導主事	五十嵐 光
16		教育支援課支援係 指導主事	豊山 花林
17		教育支援課支援係 指導主事	小原 瑠美
18	神奈川県立総合教育センター	学校教育支援課 指導主事	高木 正樹
19	神奈川県教育委員会 インクルーシブ教育推進課	課長代理 兼 事業調整グループ GL	中川 真紀代
20		事業調整グループ 主査	花田 竜也
21		指導グループ GL	二宮 雄治
22		指導グループ 指導主事	程島 観
23		指導グループ 指導主事	新船 佳如
24		指導グループ 指導主事	伊藤 紀貴

# 令和6年度第3回海老名市・県フルインクルーシブ 教育推進会議 席次表

令和7年2月3日(月)9:00～ えびなこどもセンター201会議室



## 令和6年度「対話の場（9月以降の取組）」について

フルインクルーシブ教育を推進するために、対話を通し海老名の教育について考えていく機会として、様々な「対話の場」を実施しました。

- 6月 市民との対話の場（全6回）【180名】※第2回推進会議で報告  
 9、10月 ①支援学級在籍児童生徒保護者、障がい者団体との対話の場  
 不登校支援団体との対話の場【200名】  
 10月 ②教職員との対話の場（19校）【600名】  
 11月 ③対話の場～市民学習会～【90名】  
 12月 ④対話の場～メタバース～【130名】

### 1. 支援学級在籍児童生徒保護者、障がい者団体、不登校支援団体との対話の場

#### 【主な意見】

- ・ これからを生きる子供達にとって、幼少期から色んな人がいて当たり前という環境で育つことはとても有意義だと感じる。
- ・ フルインクルーシブ教育には賛成だが、分ける事で救われる子がいるのも事実なので、支援学校など最低限の居場所は残してほしい。
- ・ 先生や保護者全員にも障がいがある子供達に興味、関心を持ってもらうことは大切だと思う。私にできることがあれば協力したい。
- ・ 海老名全体をフルインクルーシブ教育にするのであれば、インクルーシブ保育(保育園や幼稚園)にも注力してほしい。
- ・ 全校へのエレベーターの設置を進めて頂きたい。
- ・ 様々な特性をもった子たちに合った場所をつくること。様々な子たちに理解して寄り添うためには、大人(教員)が理解していかないとできない。箱やシステムを整えていくよりも、人の育成が大事。
- ・ 友達とうまくやれないわけではない、だけど何となく苦しい。こういった子たちも息がしやすい学校であってほしい。

- 参加者の方々からは、ご自身のお子さんの育ちの中で体験したエピソードをベースに対話が進みました。
- 多くの方からは、海老名市のフルインクルーシブ教育の推進について、前向きにとらえていただいていた。また、特別支援教育や、個別への配慮について、継続して保障してほしいといった要望も多く聞かれました。
- 1人ひとり、それぞれの良さが認められる学校づくりと同時に、こどもに学校が合わせることの必要性のご意見も多く聞かれました。

### 2. 教職員との対話の場

#### 【主な意見】

- ・ フルインクルーシブを進めていくのは賛成だが、始めるには人員の確保や、専門性の高い教員の育成が必要ではないか。
- ・ 具体的には何をしていけばよいのか、やはりまだわからない。
- ・ 学校の教職員だけでなく、保護者とも考えていかななくてはいけないのではないかと。また、子どもたちにどう伝えていくか。

- ・ 多様なニーズに合わせていくことは必要だが、担任一人で学級を運営していくのは、すでに厳しい状況にあるのではないか。
- ・ 今の学校の現状に余裕がなさすぎる。このことを考えていくゆとりや時間がない。
- ・ 今の評価や、高校入試では、フルインクルーシブを実現するのは正直難しい。

- 海老名市のフルインクルーシブ教育について一緒に考えていきたい、という思いと、現状の余裕のなさ（時間的な余裕のなさ、人員不足）などについての意見が多く出されました。
- フルインクルーシブ教育を推進していくうえで、さらに具体的な道筋を示してほしいと言った意見や、教員間だけでなく、保護者ともさらにフルインクルーシブ教育について対話をしていく必要性についての意見もありました。

### 3. 対話の場～市民学習会～

日時：令和6年11月26日（火曜日）18時30分～20時00分

会場：海老名市文化会館 小ホール

内容：①趣旨説明：「海老名市のフルインクルーシブ教育の推進について」

②報告：令和6年度の「対話の場」について

③講話：「インクルージョンとは、何か？」

（講師 帝京大学大学院教職研究科 教授 荒巻恵子 氏）

#### 【主な意見】（アンケートより）

- ・ 講師の話が分かりやすく、インクルージョンに至る過程を改めて確認することができた。
- ・ 対話こそが、インクルーシブ教育、社会をつくるのに必要で、それが平和な社会をつくるのだと思った。
- ・ まだまだ具体的な事が見えない。理想としている形、モデルとしているところなどあれば聞きたい。
- ・ 新たな仕組みがないと先生がパンクしてしまうのではないかと思った。
- ・ こどもの声なき声を拾うために、市民全体が興味を持って考えていきたい話だと思った。

- 講師の話はインクルーシブ教育の基本的な考えを再度確認していく上で有効であった、という意見が多く聞かれました。
- 海老名市の取り組みの報告では、もっと具体的なことが知りたいという声も多く聞かれました。

### 4. 対話の場～メタバース～

日時：令和6年12月7日（土）13時30分～16時30分

会場：メタバース空間（メタバースレンタルスペース V-expo(ブイエキスポ)）

内容：①わくわくステージ（メインステージ）：動画等の視聴をメインとした空間

②わいわいプラザ（トークスペース）：対話・協議をメインとした空間

③見る知るパーク（展示スペース）：コンテンツの閲覧をメインとした空間

#### 【主な意見】（協議・アンケートより）

- ・ 子どもの話、子どもの思いも知ってほしい。
- ・ すべての子が選べる、ということはわかったが、医療的ケアやエレベーターの設置などはどうするのか。
- ・ ホームを1つにする意味があまりよくわからない。

- ・ 対話はとても大切で、みんなで取り組むためには、みんなの声を聴くこと、聴こうとする姿勢が欠かせないと思う。
- ・ 海老名市保護者である。子どもがチラシをもらってきたので参加した。声を出して意見表明はハードルが高い。グループチャットで複数人と意見交換できたら良かった。
- ・ コンテンツとしては充実していた。良いところは生かして、継続してほしい。
- ・ 私は匿名性に慣れておらず、普段のコミュニケーションと異なりずいぶんと気を使った。
- ・ その場所に行かなくても、携帯で家やその時いられる場所で知ることができるのはいいい方法だと思った。

- 取組そのものについて、賛否両論の様々な意見がみられました。
- メタバースを活用した協議について、不慣れで難しいという声も多くありました。
- コンテンツに満足したという声や、移動等のコストがかからない点について好意的な意見もあったことから、周知の手段としては有効であると考えられます。

## 5. 次年度に向けて

今年度の対話の場は、市民の皆様や、教職員と直接対話ができる貴重な機会となりました。また、対話を通し、より現実的に学校や、学校を取り巻く様々な状況を知ることができました。

特に対話の中では、フルインクルーシブ教育の推進に向け、たくさんの不安感や懸念、期待も上がっていました。このことを受け、フルインクルーシブ教育の意識醸成を図り、さらに多くの方に知ってもらうための取組を進めてまいりたいと思います。

- ・ 継続的な対話の場の実施。
- ・ 児童生徒向けの対話の場、保護者向けの対話の場、市民学習会としての対話の場を計画。

また、様々な団体との対話の場では、学校にもっと協力したいという声もありました。反対に、教職員との対話の場では、教職員の人数が十分でないことも多く話題に上がっていました。

- ・ 教職員以外の人材活用。
- ・ 関係団体との連携（PTAや、療育団体、不登校支援団体等）や、研修の充実。

対話が進む中で、参加者は、今までの学校のあり方や授業のあり方について、見直したり、考えたりしていく必要性についても話題に上がっていました。

- ・ 学級のあり方、授業のあり方、評価のあり方についての再考。
- ・ すべてのこどもが安心して学ぶことができる環境づくり。
- ・ 教育相談コーディネーターを中心とした支援体制づくりの研究。

たくさんのご意見やご感想を頂き、フルインクルーシブ教育に大切な視点が蓄積されてきています。今後この視点を施策に活かし、さらに見直し続けながらフルインクルーシブ教育を進めていきたいと思っています。

## 令和6年度 有識者等による外部評価について

## 1. 目的

- 令和6年度のフルインクルーシブ教育推進市町村の取組における課題の明確化
- 次年度以降の取組に向けた助言

## 2. 有識者等

- 泉 真由子 氏 横浜国立大学 理事（副学長）、D&I 教育研究実践センター長
- 島崎 直人 氏 神奈川県教職員組合 執行委員長
- 榎田 成 氏 海老名市 保護者

## 3. 方法

- 各評価者から評価の観点等について事前にヒアリングを実施
- 各評価者を訪問し、評価材料、報告書について事前説明（2月4日（火）以降）
- 各評価者から書面による報告（3月14日（金）まで）
  - ・評価項目
    - ①組織体制 ②会議等実施状況 ③対話の場 ④総括
  - ・評価内容
    - 令和6年度の取組における課題および令和7年度以降の取組に向けた助言

※評価に係る評価項目・観点の詳細は資料2-2のとおり。

## 4. 評価材料

原則、以下の資料に基づき、評価を実施する

- 協定書
- 「推進会議」（第1回～第3回）に係る議事概要、配付資料
- 「調査研究部会」（第1回～第4回）に係る協議概要、配付資料
- 「対話の場」（6月～1月）に係る実施要項、配付資料、参加者アンケート（①市民 ②関係団体 ③教員 ④市民学習会 ⑤メタバース）
- 参考資料
  - ・海老名市教育大綱
  - ・海老名市立小・中学校の基礎資料
  - ・海老名市フルインクルーシブ教育推進協議会（第1回～第5回）

※他、有識者からの求めに応じて、公表済資料に限り提供することとする。

## 5. スケジュール

- 有識者による評価 令和7年2月4日（火）～3月14日（金）
- 評価結果の公表 令和7年4月～5月

## 令和6年度 有識者等による外部評価 評価報告書 (1/2)

評価項目	主な観点	現状認識	評価者	
			R6年度の取組における課題	R7年度以降に向けた助言
① 組織体制  令和6年度テーマ 「推進体制の構築」	A 推進会議の設置 B 推進会議の構成 員 C 部会の設置 D 部会の構成員 E 事務局 F その他	【成果】 市と県が協働して推 進していく体制を構 築することができた こと  【課題】 部会構成員の役割を 明確化していないこ と		
② 会議等実施状況  令和6年度テーマ 「課題の明確化」	A 推進会議の頻度 B 推進会議の内容 C 部会の頻度 D 部会の内容 E 事務局 F その他	【成果】 推進会議と部会の役 割を明確にした運営 ができたこと  【課題】 部会における協議内 容を施策に反映でき るよう連携強化をは かること		

令和6年度 有識者等による外部評価 評価報告書 (2/2)

評価項目	主な観点	現状認識	R6年度の取組における課題	評価者 R7年度以降に向けた助言
<p>③ 対話の場</p> <p>令和6年度テーマ 「多様な立場の方が参加できる機会の設定」</p>	<p>A 頻度 B 対象 C 開催方法 D 内容 E 広報活動 F その他</p>	<p>【成果】 市民・県民、各団体、教員など様々な方を対象とした場を設定できたこと</p> <p>【課題】 参加者の意見等を次年度以降の施策にかしていくこと</p>		
<p>④ 総括</p> <p>令和6年度テーマ 「対話を中心に推進策を検討する」</p>	<p>A 企画 B 実践 C 研究 D 普及・啓発 E その他</p>	<p>【成果】 対話の場を中心に、様々な方の声を聞くことができたこと</p> <p>【課題】 具体的な推進施策の調査研究が不十分であったこと</p>		

## 次年度以降の推進計画について

### ① 推進体制について

・年3回(①5月、②8月、③2月)の推進会議を行い、事業の方向性の確認及び事業の報告等を行い、協議する場とする。

### ② 調査研究部会について

・年3回(①6月、②10月、③1月)行い、テーマ「校内支援体制の充実」、「就学相談のあり方」、「すべての子どもが安心して学ぶことができる環境整備」について、各構成員にて調査を行い、部会にて協議を図り、研究を行う。

### ③ 対話の場について

・フルインクルーシブ教育の理念及び方向性の周知、啓発を図るため、市民学習会を年3回行い、対話や講師による講義を実施する。

・保護者および子どもを対象とした対話の場を、各小中学校でそれぞれ実施する。

## 海老名市・県フルインクルーシブ教育推進会議設置要綱

### (趣旨)

第1条 この要綱は、海老名市・県フルインクルーシブ教育推進会議（以下「推進会議」という。）の設置及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

### (設置目的)

第2条 全ての子どもたちが地域の小・中学校に通い、同じ場で共に学び共に育つことができる環境の実現を目指し、海老名市・神奈川県との緊密な相互連携と協働による取組の推進を図り、諸課題に係る協議及び取組方針の決定するため、設置する。

### (所掌事項)

第3条 推進会議は、次に掲げる事項について協議及び決定を行う。

- (1) フルインクルーシブ教育の実現に向けた研究・企画・実践に関すること
- (2) フルインクルーシブ教育の普及・啓発に関すること
- (3) その他、フルインクルーシブ教育の推進に関すること

### (組織)

第4条 推進会議は、別表に掲げる者をもって構成する。

- 2 議長は、海老名市教育委員会教育長をもって充てる。
- 3 推進会議は、必要があるときは、専門的事項に関し識見を有する者、関係する県・市職員、その他の者に出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

### (会議の開催)

第5条 推進会議は、議長が必要に応じて開催する。

- 2 議長は、あらかじめ指定する者に、その職務を代理させることができる。

### (部会)

第6条 推進会議は、その所掌事項に係る専門的事項を調査協議させるため、部会を置くことができる。

- 2 部会に属すべき委員は、議長が指名する。
- 3 部会に部会長を置き、部会に属する委員のうちから議長が指名する。
- 4 部会長は、部務を掌理する。

### (事務局)

第7条 推進会議の庶務は、海老名市教育委員会教育支援課、神奈川県教育委員会インクルーシブ教育推進課及び総合教育センター学校教育支援課が行う。

(補則)

第8条 具体的な実施事項、遵守事項等については、海老名市教育委員会及び神奈川県教育委員会の合意の上、決定する。

(雑則)

第9条 この要綱に定めるもののほか、推進会議の運営に関し必要な事項は、議長が別に定める。

附則

この要綱は、令和6年5月1日から施行する。

別表（第4条関係）

海老名市教育委員会	教育長
海老名市教育委員会	教育部長
海老名市教育委員会	教育総務課長
海老名市教育委員会	就学支援課長
海老名市教育委員会	教育支援課長
海老名市教育委員会	学び支援課長
神奈川県教育委員会	教育長
神奈川県教育委員会	教育局教育監
神奈川県教育委員会	教育局インクルーシブ教育推進担当部長
神奈川県教育委員会	教育局インクルーシブ教育推進課長
神奈川県教育委員会	県央教育事務所 指導課長
神奈川県教育委員会	総合教育センター 教育支援部長
神奈川県教育委員会	県立えびな支援学校長

## 令和6年度 海老名市フルインクルーシブ教育推進協議会の進捗について

## 1 開催状況

## 第3回

- (1) 開催月日：令和6年10月17日（木）15：00～17：00
- (2) 開催場所：えびなこどもセンター 201 会議室
- (3) 出席者：14名

## 【協議内容】

○海老名市の推進計画について教育長より説明

- 「対話の場」（市民・障がい者団体、教職員3校の意見）分析について意見聴取
  - ・保護者から、幼稚園と小学校での通常級・支援級在籍のこどもたちのお互いの見方、関わり方の変化について意見が出された。こどもに関わる大人、特に教職員の意識、関わり方が大きく左右する。その感覚を磨く研修があるとよい。
  - ・教師不足の中、人材をボランティアで募ることはよい。
  - ・えびな支援学校の教職員は、目の前のこどもの成長に一生懸命で、その子が社会に出てからの姿を想像することに課題を感じる。ぜひ、同じ地域で過ごす、えびな支援学校の教職員との対話の場があるとよい。
  - ・障がいのある人が友だちにいると理解が進み、手助けができるという理解がある。その意識が特別なことではなく、一人ひとりの特性であり、共生が当たり前のことと認識できるようになるための仕掛けをどのようにしていくかを行政は考える必要がある。
  - ・教職員のインクルージョンに対する意識が必要。通常級は社会の鏡だとすると、通常級のあり方を変える必要がある。教職員も意識はアップデートしているが、行動が伴わない場合が多い。支援は人につけることではなくて、場面につけるといふ考えを広めたい。
  - ・中学校は今までのやり方・考え方が身についており、意識が変わりづらい。在籍の一本化を通して、形だけでなく、意識や見方・考え方が変わるとよい。

⇒対話の場の意見を活かした市の方向性について了承をいただいた。

○教育相談コーディネーターの現状説明と、海老名市が目指す専任化についてについて意見聴取

- ・現コーディネーターより、兼務の難しさが出され、専任化になると支援体制の構築や連携を図る時間の確保ができるとの意見が出された。しかしながら、担任をしたり、授業をしたりする喜びも捨てがたいとの意見も出された。
- ・実際に専任化に近い形をとった例が出された。専任化のよさに対する理解を教職員に十分に説明後、実施したところ、朝から人の配置等にかかる時間が確保され、結果的に効果的な配置を行えることにより、全体の底上げにつながったとの報告があった。
- ・専任化の不安事項としては、支援に関することが一極集中し、他の教職員がかか

わりにくくなるのではとの意見もあった。

- ・県としては教育相談 Co の必要性は感じており、予算化も考えるが、どのような効果があるのかの検証は必要。後補充非常勤講師でできることもあるのではないかと意見が出された。

#### 第4回

(1) 開催月日：令和6年11月29日(木) 15:00~17:00

(2) 開催場所：えびなこどもセンター 201会議室

(3) 出席者：14名

#### 【協議内容】

##### ○教育相談 Co を中心とした校内支援体制について意見聴取

教育相談 Co を中心とした校内支援体制を構築するにあたり、どのような支援体制が望ましいか。

- ・基本的には間接的な支援。先生やリソースとつないでいく役割。支える相手は、こどもだけではなく、先生たちも。
- ・多様なこどもたちには、多様な大人が関わった方がいい。こどもを多くの面でもらえることができる。
- ・教育相談 Co は、級外でどの学年にも属さず、授業もできるだけ少ない方がいい。
- ・専任の方が、学校全体を見渡すことができると感じる。
- ・補助指導や通級など、関わる人それぞれではなく、つなぐことが大切ではあるが、難しい。
- ・学校以外でアドバイスもらえる機会があるといい。
- ・何をどのようにコーディネートしていくのか。しっかりと考えていく必要がある。どのような視点でコーディネートしていくのか。
- ・教室に色んな大人が入る目的は、(トラブルの)未然防止。兆候があったときに担任一人では気がつかないこともある。SOS の小さい芽のうちにいろいろな先生と掴むことが大事。

##### ○就学のあり方について意見聴取

地域の学校がより選ばれやすくしていくためには。

- ・保護者の率直な意見として、えびな支援学校は校舎もきれいで工夫されていて、可能ならこういう環境で子ども達を学ばせたいと思う。また、地域の小学校への見学頻度を未就学児のうちにもっと増やしてもらえたらありがたい。
- ・小学校に早い時期からの見学会を実施するとよいのではないかと。入学したての頃を見てもらった方が安心されるのではないかと。
- ・保健福祉部との連携。海老名の受け入れ態勢はすごい。もっと前から海老名の支援体制を知ってもらいたい。
- ・車いすの子は海老名小学校ではなく、その子の学区に合わせてできるということを伝えていく。あきらめなくていいと小さいうちから知ってもらいたい。

## 第5回

- (1) 開催月日：令和7年 1月23日(木) 15:00~17:00
- (2) 開催場所：えびなこどもセンター 201会議室
- (3) 出席者：15名

### 【協議内容】

○海老名市の推進計画について意見聴取

#### Aみんなでめざす

- ・ ちょうど来年から1年生で入学するので、楽しみである。教員から、保護者とももっと対話をしていくということをもってもらったので、私たちも何かしたい。
- ・ 特別支援学校でも海老名市から多くのこどもが通っているので、特別支援学校でも対話の場をやってほしい。
- ・ 教師が「何が大切なのか」を理解すれば進んでいけるのではと思っている。その一つの方法が「対話の場」であると思う。教員がやれると思えば、教員には力がある。

#### Bみんなで支える

- ・ 今は、通常級に時々支援級からくるというイメージだが、これからは通常級が中心に必要な子は支援級に行くという考えになっていくといい。
- ・ 就学支援の在り方にもかかわってくる。通常の学級の担任の意識も変えないといけない。
- ・ 特別支援学校の交流は、中新田小とは近いので交流できているが、他の学校とは学校間交流はできてない。居住地交流は積極的にやっている。
- ・ 保護者としては、交流することはプラスにもなる。特別支援学校のことを知らない保護者も多い。まずは知る、ということが大切なのではないか。

#### Cみんなで見直す

- ・ えびなっこ支援シートにもかかわってくるが、作って効果を求めてしまうことがある。一緒に作るだけで、目的は達成されると考えている。
- ・ S S Rも課題はあり、学校ごとに冊子を作っているが、これでいいのか、迷いもあった。
- ・ こどもや教員の意識の変化に時間はかかるが、少しずつ変わっていくと思う。
- ・ 学級をホームにしていくための取組は、教師が学べる機会がもっとあるとよい。
- ・ 通常の学級の先生方の研修が大切なのではないか。担任は一生懸命やっているが、ちょっと勉強できないと、補助指導、支援級、という流れがある。通常の学級の中で、それなりにみんな楽しい、となると他に行かなくてよくなる。通常の学級がどこまで頑張れるか、というのが大切だと思う。

#### Dみんなで整える

- ・ 中新田小学校の外壁がカラフルになった。学校はもっとカラフルにしていった方がいいのでは。
- ・ 時計は変えるつもり。物が変わると教員も変わるのではないか。やる気は教員も感じられるのではないか。

※3回の会議とも、スーパーバイザーから講義あり

## 令和6年度 海老名市・県フルインクルーシブ教育推進会議

## 【調査研究部会】

## 1 開催状況

## 第3回

- (1) 開催月日：令和6年9月26日（木）15：30～17：00
- (2) 開催場所：えびりーぶ
- (3) 出席者：9名

## 【協議内容】

○海老名市の推進計画について（情報共有）

○学校環境の整備等について、市内19小中学校の小学校第5学年から、最小人数級（20人）と最大人数級（34人）を抽出し、その比較をもとに1学級あたりの適正人数について分析した。本会では、「フルインクルーシブ教育にとって1学級の人数をただ少なくすればよいということではない」という分析結果を提示し、フルインクルーシブ教育を推進するにあたり、人数に関係なく、こどもが成長するために大切なことについて意見聴取

- ・フルインクルーシブ教育を推進するにあたり、学習は確実に保障される必要があり、そのためには35人学級はやはり適正ではない。こどもが学習でつまずいた時、教師がどれだけ早めに支援し、学びを保障するかが重要である。その意識が必要。
- ・授業のあり方を考える必要があり、例えば教師が2人いた場合、どのような連携や支援ができるかということを考える必要がある。
- ・現在の学習評価のあり方は、こどもが書いたものを評価することが前提であり、基準がある。教え方の多様性＝学習評価の多様性を考えるべき。
- ・一緒に過ごすことという形だけの取組でなく、柔軟な学びが必要で、すべてのこどもが対等に学ぶことが大切。

○教育相談 Co（以下、Co）を中心とした校内支援体制について、海老名市が考える Co（呼称、教職員が務める等）と、理想像（案）を提示し、意見聴取。また、現 Co の担任や級外兼務の状況提示、後補充による Co 業務の比較を通して分析した結果を提示し、意見聴取。

- ・児童生徒指導担当の役割についての疑問や、専任化することのメリット、デメリットについて意見が出された。
- ・教員を支える立場、校内のセンター的機能を有する役割を持つべき。
- ・総合教育センターで、海老名市に向けた Co 研修の実施要望もあがった。

⇒いただいたご意見を事業に反映するとともに、5年間ビジョンを具現化したロードマップ案を事務局で作成し、次回会議までに意見をいただくことで了承。

#### 第4回

- (1) 開催月日：令和7年1月15日（水）15：30～17：00
- (2) 開催場所：えびりーぶ
- (3) 出席者：9名

#### 【協議内容】

○海老名市の推進計画について

A みんなでめざすについて

- ・ こともとの対話の場について、こともに対して、障害とか、インクルーシブと伝えるのは難しいと感じる。クラスの状況に合わせて柔軟に変えられるとよい。
- ・ 子どもの捉え方は独特なので、慎重に進める必要がある。
- ・ 12月メタバースは来年も行う準備をしている。
- ・ 市民会議について、市民が主体となってやっていけるようにしていけるとよい。

B みんなで支えるについて

- ・ 特別支援教育の色が強い。ニーズのある子が対象と感じられてしまう。
- ・ いろいろな学びがあり、みんなのラーニングスタイルがある、ということが入ってくるとよいのではないか。
- ・ みんなの学びのスタイルを尊重する、という項目が入ってもよいのではないか。
- ・ 学力的に高い子もきつい。ギフト系の子たちのことも考えていくと良い。
- ・ 中学校に対しては、合理的配慮をしっかりと提供するという事で、補っていく。
- ・ Coのネーミングについて、インクルーシブの中心になっていくような人だとわかるようなネーミングがよいのではなか。
- ・ 通級指導教室の全校設置とあるが、入級に際し、学校だけで考えていくのではなく、有識者も含め、みんなで考える、というような会議があると良い。
- ・ 就学相談のあり方と合わせて考えていくという発想もあってもよいのではないか。

C みんなで見直すについて

- ・ 在籍と定数のことについての意見が出された。
- ・ コーディネーターの役割について、考えていくことが必要ではないか。

D みんなで整えるについて

- ・ 特に意見は出されなかった。

⇒公表の仕方については、今後、事務局で検討していくことで了承を得た。

## 令和6年度 兵庫県及び広島県へのインクルーシブ教育に関する取組視察 報告

12月3日(火)、4日(水) 訪問者：海老名市教委1名、神奈川県教委2名

## 視察1 兵庫県 神戸市教育委員会【学年(チーム)担任制の取組】

## ①概要

- ・令和5年4月より取組を開始し、段階的に全市に展開予定(※政令市初)
- ・通常の学級の担任を固定せず、児童・生徒の指導等(小学校での授業や、小・中学校での学活・給食・保護者対応等)の業務を複数教員でローテーションして担当

## ②インクルーシブ教育推進に向けた示唆

- ・現行の法制度を最大限活用した、学級担任という当たり前の問い直し
- ・担任を固定しないことで、すべての教員ですべての子どもをみる意識が醸成
- ・教員の心理的負担の減少や、子どもが相談しやすくなるなど、誰もが過ごしやすい学校づくりが推進
- ・学級を複数の教員で共同経営することで、開放的で柔軟な学級づくりが展開

## 視察2 兵庫県 明石市【あかしインクルーシブ条例の制定】

## ①概要

- ・令和3年4月に「すべての人が自分らしく生きられるインクルーシブなまちづくり条例」を制定
- ・インクルーシブな社会の実現に向けて、条例と取組を両輪として推進中

## ②インクルーシブ教育推進に向けた示唆

- ・社会づくりとしてインクルージョンの理念を市民と共有することで、教育についてもともに考え、協働していく取組が推進

## 視察3 広島県 福山市立常石ともに学園【イエナプラン実践校】

## ①概要

- ・令和3年4月に公立小学校としては、全国初のイエナプラン認定校として開校
- ・1～3年生、4～6年生の混成学級で、年間を通して教育活動を実施

## ②インクルーシブ教育推進に向けた示唆

- ・現行の法制度を最大限活用した、学年別学級という当たり前の問い直し
- ・各学校において、柔軟な学級編成、教育課程編成が可能であることの実例
- ・すべての子ども「多様な学び」を、教科等横断的な学習や指導と評価の一体化の工夫によって推進